

トルコ中央銀行、大幅利上げを実施

ポイント① 3か月ぶりの利上げ

トルコ中央銀行は9月13日の金融政策決定会合で、主要な政策金利である1週間レポートを17.75%から24.00%へ引き上げました。政策金利の引き上げは6月以来3か月ぶりです。前回7月24日の金融政策決定会合では、金融市場での事前の利上げ予想に反して利上げが見送られました。

ポイント② 通貨下落と物価上昇のスパイラル

今回の利上げの背景にあるのは、通貨トルコ・リラの大幅な下落とインフレ率の急上昇です。トルコ・リラの対米ドル為替レートは、7月末の1米ドル＝4.9トルコ・リラ前後から8月には一時7.2トルコ・リラ台までトルコ・リラ安が進みました。消費者物価指数の前年同月比上昇率（インフレ率）は7月の15.85%から8月には17.90%まで上昇しました。さらに、消費者物価指数に先行して動く傾向がある生産者物価指数は8月には同32.13%と7月の25.00%から急上昇し、2003年5月以来の高い上昇率となりました。

通貨安によってインフレ率が上昇し、インフレ率上昇によって通貨への信頼が損なわれてさらに通貨が下落するというスパイラルを食い止めることが、トルコの中央銀行と政府の大きな政策課題になっています。

ポイント③ インフレ抑制に追加措置の必要性を残す

エルドアン大統領はインフレ抑制には政策金利の引き上げよりも引き下げが必要と主張してきました。7月の利上げ見送りは、大統領の意向が原因だったようです。しかし、8月のトルコ・リラ急落とインフレ率の急上昇によって危機感が高まったことで大幅な利上げをせざるを得なくなりました。

今回の利上げは、通貨下落と物価上昇のスパイラルを止めるために金融政策が正しい方向に動いたという点で評価できます。ただ、インフレ率が現在と同程度の水準にあった2003年当時の政策金利や市場金利は30～60%程度と非常に高水準にあったことを見ると、今回の利上げがインフレ抑制のためには不十分である可能性もあり、追加措置が必要となることも考えられます。

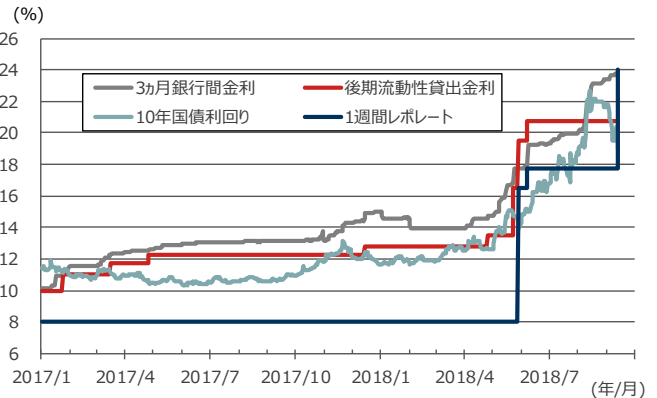
重要
イベント

9月24日 トルコ実体経済信頼感指数（9月）
9月26日 米国金融政策発表
9月28日 トルコ貿易収支（8月）

NOMURA
野村アセットマネジメント

図1：トルコの政策金利と市場金利

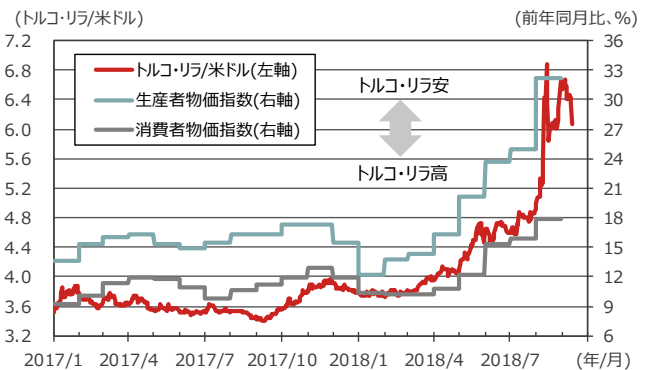
期間：2017年1月1日～2018年9月13日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：トルコ・リラとトルコの物価

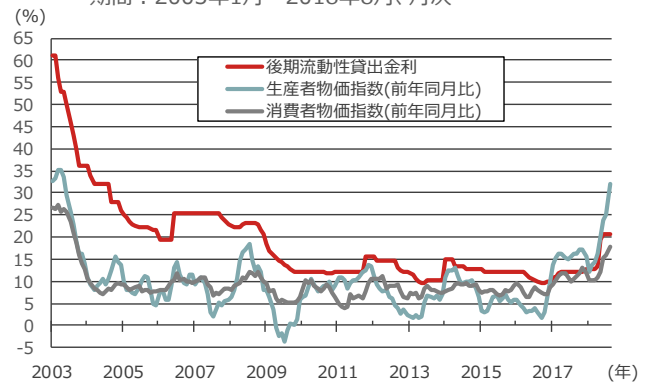
期間：トルコ・リラ：2017年1月1日～2018年9月13日、日次
物価指数：2017年1月～2018年8月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図3：トルコの物価と政策金利

期間：2003年1月～2018年8月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。